

# 看護職員の負担軽減及び 処遇の改善計画

# JCHO大阪病院では、看護職員の負担軽減及び処遇改善のため 下記の項目について継続的な取り組み

- (1) 看護職員の負担軽減及び処遇の改善に関する責任者  
事務部長、看護部長
- (2) 看護職員の勤務状況の管理 勤務時間（日本看護協会ガイドラインに準じる）  
勤務間隔は 11 時間以上あける（勤務間インターバルの確保）  
勤務拘束時間 13 時間以内とする  
仮眠取得の確保と仮眠環境の整備をする  
頻繁な昼夜遷移が生じない交代制勤務の編成とする
- (3) 多職種からなる働き方改革・業務改善のための委員会及び会議（1回/月）  
働き方改革・業務改善委員会、労働安全衛生委員会、看護部業務委員会
- (4) 看護職員の負担軽減及び処遇の改善に資する計画 計画の策定  
評価と次年度計画立案（1回/年）、職員への周知（部署内掲示）
- (5) 看護職員の負担軽減及び処遇の改善に関する取り組みの公開  
院内に掲示、ホームページ上公開

# 看護職員の勤務状況

- 病床数 505床
- 看護職員数（2024年4月1日時点）
  - 看護師・助産師・保健師数
    - 正規職員 492名 非常勤職員 12.3名
  - 看護補助者 86名
  - 産・育休取得者数 33名
  - 時短職員数 53名
- 週平均勤務時間 週37.45時間
- 超過勤務時間数 平均6.9時間/年（2022年度6.2時間）
- 有給取得数 平均10.2日/年（2022年度11.2日）

# 看護職員の負担軽減及び処遇改善のための取り組み内容

	2023年度	評価	2024年度の方針
時間外労働が発生しない業務量の調整	業務量調査結果からの検討 就業前勤務対策 情報収集時間の短縮	・情報収集を勤務時間内に行うよう業務改善を行った	電子カルテの効果的な活用推進 DX推進に向けたWGの設置
看護職員と他職種との業務分担			
薬剤師	内服薬管理についてQC活動	内服薬管理についてQC活動を行い、薬剤師の協働が一部得られた	内服準備・退院時指導の協働について継続課題 新化学療法室での協働
放射線技師	技士による造影剤注射の増員	技士による造影剤注射の増員	急変対応の合同訓練
リハビリ技士	365日リハの開始 ICU患者の早期リハ件数増	365日リハの開始 ICU患者の早期リハ件数増	抑制ゼロ対策協働 転倒転落防止に向けた協働
臨床検査技師			入院患者の採血依頼
ボランティア	ボランティア活動再開	ボランティア活動再開	採用数増、活動幅拡大
臨床工学士			MACTの設置

# 看護職員の負担軽減及び処遇改善のための取り組み内容

	2023年度	評価	2024年度の方針
看護補助者の活用	ラダーレベルの導入 ナイトエイドの配置、処遇改善	直接ケアの介助に向けた研修後の実施し業務拡大。定着率向上	ラダーシステムの明確化 看護師業務補佐を拡大
ニーズに応じた勤務形態の導入	キャリアやWLBに応じた採用の仕様	スキマバイトの開始	多様な勤務体制の構築 非常勤採用の開始
妊娠・子育て中、介護中の看護職員に対する配慮	助産師による産休前の面談	取り組みの効果を検証。	多様な勤務形態の開始
他職種の配置	MA15対1 救急救命士	救命士3名採用	MAの体制整備と協働
メンタルサポート	臨床心理士によるカウンセリング	リエゾン精神CNSの配置による患者・職員への迅速な対応	心理的安全性が確保された職場環境の構築
リリーフ体制	必要な部署へのリリーフ配置の可視化に向けた準備	ベッドコントロールにおける客観的なリリーフ体制の整備	日々の多忙部署の可視化を行い、適正配置
研修時間	E-learningの活用と研修時間の短縮	E-learningは効果的には活用できず	生涯学習支援体制に向けた教育システムの改築
会議時間	会議時間の短縮	ワーキング委員会の短縮	会議方法・内容の検討